

‘キャッチ’
CATCH

VOL.97



2021.11

西東京市図書館

"ジャケ読み"のススメ

表紙が気になって、思わず本を手取ることでありますよね。カッコいい！ほっこりする、インパクトがある…等、心に残る表紙・装丁の本をご紹介します！



『かがみの孤城』

辻村深月 著 ポプラ社



この小説の表紙を見て、最初に目に入るのはきらきらと光る大きなタイトル文字です。角度を変えると虹色に輝いて見え、その様子はまるで鏡のようです。そして、表紙のイラストにも描かれている鏡はこの小説のキーアイテムとなっています。

とあることがきっかけで、学校に行けなくなった中学生のこころ。ある日、部屋の姿見が光りだしてこころは鏡の中の城に吸い込まれてしまいます。そこには、同じような境遇の子供達と「オオカミさま」を名乗る不思議な女の子

がいました。何でも願いを叶える鍵が隠されているというどこかファンタジーな城で、彼らは少しずつ交流していきます。読み終わった後、心が温くなるようなお話です。

私がこの本の装丁で特に惹かれるところは表紙をめくった先、タイトルが書かれた「扉」と呼ばれるページです。和紙のように薄く透ける紙の向こうにうっすらとタイトルと作者名が並びます。扉をめくると裏側は打って変わって一面銀色のつるつるとした紙です。そこには鏡文字で「かがみの孤城」とあります。表から見ると普通の文字でも、実際は裏に左右反転した文字で印刷されている仕掛けも鏡を連想させ物語へのわくわく感が膨らみます。

またこの小説の文庫版では、上下巻の表紙を並べると一つの鏡が完成するイラストがありとても素敵なのでそちらも見てみて欲しいです。最後に、どんな言葉で説明するよりも、手に取ってみれば表紙や装丁の魅力を実感できると思います。ぜひ物語と装丁それぞれに注目して読んでみてください！

『もじゃもじゃペーター』

ハインリッヒ・ホフマン 作 ささきたづこ 訳 ほるぷ出版

おばあちゃんの家にある古い絵本。

表紙が印象的です。

内容も、印象的で今でも心に残っています。簡単に説明すると子供のための絵本ですがいくつかのお話が印象的な絵と共に描かれています。

爪を切らないとどうなっちゃうかな？火遊びはいけないよ。好き嫌いは良くないよ。

などひとと言で言っても子供は聞かないと思いますが、この絵本を読めばその結果がどうなるかを一目でわかるように描いています。

今は、絵も少し可愛くなっているようですが、祖母の家に遊びに行くと怖いもの見たさで読んだ絵本です。今の時代、子供向けとは言えない内容ですが中高生にはなかなか刺激的で面白い絵本だと思います。

本屋さんからはほとんど姿を消してしまっていると思うので、ぜひ図書館で手に取って見て下さい。良いことと悪いことが、とってもわかりやすく描いてあります。



『青春拳法開眼小説 カンフーガール』

八神かおり 著 文芸社

ある日の図書館にて本を探していた私はこの本を見つけました。セーラー服を着た女子高生が鼻になるとをつけているという印象的な表情。しかもタイトルは「青春拳法開眼小説」。これは借りるという選択肢しかありませんでした。

内容は確かに「青春拳法開眼小説」でした。主人公の白石良子は国際エリートを夢見る、カンフー映画が好きなちょっと喧嘩っ早い女子高生です。ある日、行きつけのラーメン屋の店主に「日本で本当の中国拳法が習えないか」と相談したところ、なんとその店主が中国拳法の



達人だったのです。その日から師匠との中国拳法の一つである「武式太極拳」の修行が始まりました。太極拳とは技を練って内功と呼ばれる体内の「気」のエネルギーで敵を打つという拳法です。良子は師匠に言われたことをしっかりやり、どんどん上達していきます。

そのような日々のなかで、出家を目指す彼氏ができたり、未経験なのに高校の剣道部に殴り込みに行ったり、格闘技の大会に出たり、たくさんのことを経験しました。そのような経験や、師匠の言葉を良子が素直に受け取り、成長していく姿には見習うべきものがあると思いました。私自身、運動部に所属していて、つい自己流のやり方になってしまったり、顧問の先生の言うことを素直に聞けないことがあります。意味のよくわからない練習でも師匠のいった通りにやるということは大切なことだと良子の姿から学びました。

表紙とタイトルに惹かれて借りた本ですが内容も素敵な本です。皆さんもぜひ読んでみてください！

『桜の下で待っている』



彩瀬まる 著 実業之日本社

みなさんにとって、「ふるさと」はどこですか？

今住んでいる場所や、生まれた場所、あるいはどこか違う場所を思い浮かべるかもしれません。

また、「ふるさと」に対し、楽しい思い出や悲しい出来事を思い出すかもしれません。

この本は、可憐な桜の花が彩る4月の東北を舞台に、登場人物それぞれの「ふるさと」が、花のエピソードと共に描かれています。「モッコウバラのワンピース」では、孫と、花柄のワンピースを着た可憐な祖母の関係が描かれ、とても春らしい気分にさせてくれます。「菜の花の家」では、母に良い感情を抱いていない姉弟が登場しますが、それでもやっぱり家族なのだ、と納得してしまいます。モッコウバラ、菜の花、そして桜の情景と共に「ふるさと」を巡ってみると、きっとどこか懐かしい、あたたかい気持ちになるでしょう。

また、新幹線と桜、柴犬とソフトクリームが描かれた表紙も、とてもかわいくて魅力的です！

桜の木の下を走る新幹線は、物語のキーでもあり、どこか遠いところに連れて行ってくれそうな乗り物です。故郷へ帰る人々はみんなこの新幹線に乗っており、最終話では、新幹線の車内販売のお姉さんの「ふるさと」も描かれます。

東北の各地の春の情景もとても美しく、自分も一緒に旅をしているような気持ちになります。みなさんも、かわいい表紙に癒されながら、「ふるさと」を想ってみてはいかがでしょうか？

『世界の美しい色の祭り』

渡部隆宏 著 X-Knowledge

今回紹介する本は「世界の美しい色の祭り」。カラフルな表紙が非常に目を引くこの一冊は、タイトルにあるように「色」をテーマとして世界の様々な祭りを紹介していく内容となっています。色の項目には赤や黄、青や緑、白黒といった色の他に、カラフルというものもあり、どの項目もその祭りの「色」を強調した綺麗な写真で彩られています。例えば、表紙の色とりどりの装飾品に飾られたピエロのような見た目が印象的な一枚、この写真は「カラフル」の項目にて紹介されているフィリピンのマスカラフェスティバルからの一枚です。この祭りは、開催地であるフィリピン中部のネグロス島のバコロドという町が不景気に見舞われてしまった1980年に、町の皆の笑顔を取り戻すべく始まったもので、現在はフィリピンを代表するイベントとなっているそうです。祭りを紹介するそれぞれのページにはこういった祭りの由来や開催地、開催時期、もっと詳しく知りたい人の為に参考サイトのURLなども添えられており、この本を読んで実際にその祭りに行ってみたくなった、という人にも中々手厚い内容となっています。



夏、オリンピック・パラリンピックが開催され、開会式などで海外の文化に触れた人も多いであろう今、こういった本を通してより世界の様々な文化に触れてみてはいかがでしょうか。

『小説アナと雪の女王―影のひそむ森―』



ベンコー 著 越前敏弥 訳

ウォルト・ディズニー・ジャパン 監修

KADOKAWA

「あれはただのオオカミじゃない。悪夢だ。アナの悪夢。それがみんなを追ってきた。」

この作品は、ディズニーの映画『アナと雪の女王』から『アナと雪の女王2』につながっていくオリジナルのファンタジー小説です。

物語は、『アナと雪の女王』での冒険を終えた、アレンデールという王国の女王、アナを主人公として始まります。平和になり、他国との国交を回復させた王国は、5日後に諸国歴訪をひかえています。楽しみにしているアナですが、姉であり王国の女王であるエルサはアナを連れていくつもりがないようです。アナは、自分は姉にとって頼れない存在だと思われていると感じます。そんな中、王国で動物や植物を白くし、弱らせてしまう原因不明の病気「真っ白病」が蔓延し始めます。「真っ白病」はあっという間に国中の動物を深く眠らせ、植物を腐らせていきます。人々は食糧不足等で困り果て、エルサの諸国歴訪もとりのやめになってしまいます。

さて、冒頭にオオカミとありましたが、一体何のことでしょうか。王国を救うべく、城の図書室で「真っ白病」の終息に役に立ちそうな本を探すアナは、隠し部屋を発見しそこで『魔法づくりの秘密』という本に目をひかれます。何かヒントになるかもしれないとエルサに伝えますが、全く興味を持ってくれません。姉は自分のことを頼りにしてくれないと痛感したアナは、その本に書いてある、夢を現実にする呪文を一人唱えます。翌日、呪文が本当に効くと思っていたアナの前に、夢に出てきたオオカミが現れます。そして、アナやエルサたちの「真っ白病」とオオカミをめぐる新たな冒険が始まります！！

この本は、2本の映画を観ていなくても読めますし、すでに映画を観られた方には新たな発見もあるかもしれません。また、『アナと雪の女王2』のネタバレの心配はありません。

さて、この本の表紙ですが、一見すると森の中にアナとエルサがただ立っているだけのように見えますが、よく見ていただくと…分かりますか？こちらをにらんでいるものが見えませんか？

アナとエルサとその仲間たちの、まるで1本の映画のような新たな物語を、ぜひ楽しんでみてください。

『木曜日にはココアを』

青山美智子 著 宝島社

この本の表紙はとてもかわいいです。ミニチュアが好きな人はきっと胸がキュンとします。

温かそうなココアが入った木のマグカップ。

その周りにいる小さくてカラフルな登場人物たち。

小さな看板。

くすんだ緑色の小さな街路樹。

トリコロールのサンシェード。



そして、表紙の温かさを裏切らない優しくて柔らかい物語たちは、先の見えない不安で張りつめ、疲れた心をふっとほぐしてくれます。しかも、たくさんの伏線が張ってあったり、思わぬところに関わりがあったり。一回目に読んだときからすでに最高なのに、読めば読むほど新しい魅力や発見がある「スルメ小説」の一面も持ち合わせているのです。

読み終わったあと、表紙を見ながら「この人はたぶんあの人だからこの人と関わっていて・・・」などと考えてるのもとても楽しい時間でした。

この本の中につまった 12 色の話。お気に入りの色の話をくりかえし楽しんだり、主人公ではない登場人物の人生を想像してみたり、主人公たちのその後を考えてみたり。登場人物たちが十人十色なので、楽しむ側もいろいろな楽しみ方ができそうで夢がふくらみます。奥が深くて、いつまでたっても発見があるこの本。

まずは表紙だけ、ぜひ見てみてください。

共同編集者のつぶやき

～編集後記に代えて～

今回の特集テーマは表紙でした。装丁を含めたデザイン・紙の質感などは紙の本ならではの魅力ですね♪皆さんもぜひ“ジャケ読み”してください♪

- ①ペンネーム
- ②今、好きな本のジャンル
- ③今、行きたいところ！

- ①しい
- ②ファンタジー系が好きです。特に**現実世界に似たようなもの**だという
いう妄想できて楽しいです。
- ③山梨とか北海道とかで**美味しいもの**を食べたいです。いつかは日本
中をまわってみたいです。

- ①ひまわり
- ②資料集（意外に面白い）
生物の資料集にはまっています。
- ③台湾！！修学旅行で行く予定だった
（'ω'）必ず行きたい！

- ①しほ
- ②物語（ファンタジー、フィクションなど）
国語の教材に物語が出てくると嬉しい…。
- ③映画館
『劇場版 ルパンの娘』と『そして、
バトンは渡された』を観たいから。
（どちらも原作は小説なんです！）
※『ルパンの娘』横関大/著 講談社
『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ/著 文藝春秋

- ①なぎ
- ②エッセイに興味があります！
- ③韓国行きたい…**聖地巡礼**してみたい…

- ①あさぎ
- ②ファンタジーがずっと好きです！
- ③沖縄や北海道。遠いところに旅行に行きたいです。**風景が綺麗な場所の写真を撮りたい**なと自粛中思っています。

- ①アオイ
- ②ファンタジー
- ③京都

- ①たまき
- ②時代小説
- ③江戸時代の江戸や京都に行きたい！（『新選組 2245 日の軌跡』が
とてもかっこよかったです。）
※『新選組 2245 日の軌跡』伊東成
郎著／新潮社

- ①りほ
- ②ファンタジー、動物のでてくる話
- ③藤子・F・不二雄ミュージアム

募集予告 いっしょにCATCHをつくりませんか？

CATCHは共同編集者（令和3年度は10人）と図書館スタッフで作っています。
令和4年度の共同編集者を、この冬から募集予定です！

対象：中学生（4月からの新中学生も可）～22歳の方

活動内容：『CATCH』の内容企画、本の紹介文執筆、編集、校正など

くわしい活動内容や応募方法は12月に図書館のHPやポスターでお知らせします！